2016.10 vol.46

多賀城発で多賀城着。ヒト・コト・モノを届けます

「tag」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のため に何か活動したいという方を応援する月刊フリーペーパーです。



学生時代に出会う大人は、家族や学校の先生な ど限られています。しかし、社会にはさまざま な立場・職業・経験を持った人がいます。 NPO法人ハーベスト(仙台市)は、若者が多様 な大人たちと出会える場を提供することで将来 の選択肢を増やし、自分がどんな大人になりた いのかを考えるきっかけづくりをしています。

その場の一つがキャリアセミナー。高校と連携 し、授業の一環として社会人が市民講師として 生き方や仕事について語ります。たとえば、銀 行員による仕事の話や少年時代の夢を叶えた男 性の話、定年で退職した方がこれまでの人生を

振り返る話などなど…。講師を務めることで高 校生に気づきをもたらすだけでなく、逆に学ぶ こともあるそうです。また自分の考えや想い、 やってきたことが整理できた、という方も多く います。

講師になるには、特技や特別な経験は必要あり ません。一人一人のこれまでの人生経験が、高 校生にとって新鮮で刺激的なのです。

NPO法人ハーベストの活動や、市民講師 に関心のある方はこちらをご覧ください。

ハーベスト

http://www.heartbest.net/

検索几





たがさぽスタッフも昨年、多賀城高校でたがさぽの仕事や NPOについて語ってきました!



夢中になって講師の話を聴く高校生たち。誰の話を聴くのか は、事前に講師のプロフィールをもとに選びます。



ニントfrom"たがさぽPress'

たがさぽのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介

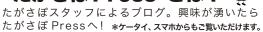
詳しくはブログへ http://blog.canpan.info/tagasapo/

「小規模多機能自治」という考え方。 2016年9月6日(火)掲載 人口減少や少子高齢化の対策として、地域ごとの実情や課題に応じた取 り組みを住民たち自らの手で行う地域づくりが各地で始まっています。

○ つくる人と食べる人のココロをつなぐ「食べる通信」 2016年 9月8日(木) 掲載 農・漁産物のつくり手を特集した冊子と収穫した物がセットで届く「食べる通 信」。つくり手の物語とともに食べ物をいただく新たな食体験が楽しめます。

● 待っています! 役立てます! 大切にしていた本を 9月29日(木) 掲載 本の知識のリサイクル、寄付された本を販売して得た収益の還元など、「本」 を通した社会貢献を行うNPO法人セカンドブックアーチの活動をご紹介。

"たがさぽ Press"とは?







たがさぽからのお知らせ

たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介

多賀城ソーシャル・エッセンス講座 「ソーシャル・セクター概論」

最近よく耳にする「ソーシャル」という言葉。この講座では「社会や地域 をよくすること」と定義し、NPOなどの活動や、社会や地域の課題をビ ジネスの手法で解決するソーシャルビジネス、コミュニティビジネスに ついて学びます。ゲストに「NPO法人ピースジャム」の佐藤賢さんをお 迎えし、実践例を交えたお話もいただきます。

時 2016年11月12日(土)午後1時30分~午後3時30分

会 場 多賀城市市民活動サポートセンター 101会議室

費 用 無料

定 員 15名(先着順/要事前申込)

申込み 多賀城市市民活動サポートセンター窓口または電話にて

問合せ 022-368-7745 (多賀城市市民活動サポートセンター)

「災害への備え」していますた

災害が起こった際には「自助・共助・公助」がそれぞれの役割を果たすことが大切だと言われています。 今回は、多賀城市が2015年度に実施した「まちづくりアンケート」の結果を踏まえて、災害への備えについて考えます。

自分自身や、家族を守るために

「自助」とは、「自分のことは自分で守る」ことです。そのために日常から備えて おくこととして、以下のことが考えられます。

- ・非常用持ち出し品や非常用保存食・飲料水の準備
- ・避難場所や、家族との連絡方法の確認
- ・家の耐震補強や家具の転倒防止対策

集まる場所: 「〇〇公園」

これらには、すでに多くの家庭で行われているものもあれば、未対策のものもあ ります。災害発生時には不測の事態が起こることも多く、すぐに支援や援助を受 けられない場合もあるので、何が必要で何を備えておくのかを家族と話しあって おく必要があります。その際の参考資料として、防災・減災に取り組むNPOの ホームページに掲載されている物品のチェックリストや豆知識も活用しましょう。 また、「自助」は「防災の基本」とも言われます。まず自分自身を守ることに よって、「共助」につながるからです。

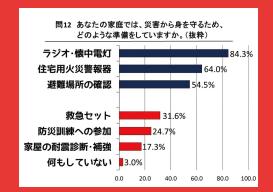
日ごろからの地域のつながりが、災害時の力に

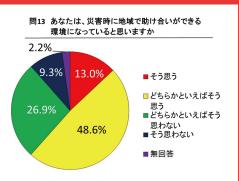
「共助」とは「身近な人たちがお互いに助けあう」ことです。この「身近な人」と は、近所の人、同じ地域に住む人や友人などを指し、互いに協力しあって地域ぐ るみで高齢者や障がいのある人、乳幼児などのサポートにもあたります。1995年 に起きた阪神・淡路大震災では、生き埋めになりながら助かった人の約6割が「身 近な人」によって救出されたことからもその重要性が分かります。

「共助」を進めるためには、日ごろの地域での関係づくりが大切です。近所付きあ いや地区行事への参加を通して、多くの人と顔見知りになり声を掛けあう関係に なることが「共助」のきっかけになります。また、防災訓練は地域に関わるチャン ス。避難ルートや避難所、非常備品の確認、サポートを要する人の把握及び、け が人の対応や炊き出しの訓練など、地区ごとにさまざまなプログラムが行われま す。地区ぐるみで取り組むことで、地域で協力しようという雰囲気も生まれます。

災害への備え一「もの」と「心構え」と

中長期的には行政機関からの支援である「公助」も大事ですが、災害発生直後は 「自助」「共助」のはたらきがより重要となります。そのために必要なのは、災害 に備えての「もの」の準備と、自らを守ったり地域で助けあう「心構え」です。 多賀城市では、11月に総合防災訓練があります。この機会に家庭や地域で、災 害への備えを見直してみませんか。





ともに、多賀城市「まちづくりアンケート」より (2015年度実施、1513人回答)

11月6日

▲多賀城市総合防災訓練

日時:11月6日(日)午前8時30分~正午頃

場所:多賀城市役所、

大規模災害時指定収容避難所など、市内各地区



・シェイクアウト訓練 ・津波避難訓練

・避難所開設・運営訓練

・要配慮者避難誘導訓練

その他、地区ごとに訓練を行います

\詳しくは、たがさぽ Press をご覧ください/

「多賀城市総合防災訓練~災害への備え、 見直しませんか」2016年10月30日(日)掲載

What's 「tag」には、多賀城 (tagajo)の頭3文字、みんながタッ グを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ (価値) をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではツイッターもやって ます。フォローお願いします! @tagasapo 🕊



「たがさぽ」ホームページはこちら http://www.tagasapo.org/